

参考資料2

厚生労働省医政局看護課

看護師候補者受入れ施設の意識調査について（速報）

1. 調査の目的

インドネシア及びフィリピンとの経済連携協定（EPA）に基づき実施されている看護師候補者の受入れに関しては、日本語能力の不足等に伴い、現場でのコミュニケーションの問題も見られるとともに、候補者の国家試験の合格率が低迷し、また受入れ希望施設が減少傾向にあるなど、現在の受入れの枠組みの改善の検討が必要となっている。そこで、その改善の検討に資するため、受入れ施設の意識調査を実施した。

2. 調査の対象

平成20年度から平成22年度にインドネシア人候補者及びフィリピン人候補者を受け入れた全施設（163施設）

3. 調査の時期及び方法

平成23年9月14日（水）～26日（月）

調査対象施設へ電子メールにて調査票を送付し、メールまたはFAXにて回答を受領

4. 回答の状況

回答総数 125 （うち合格者受入れ施設17）
回答率 76.7% （合格者受入れ施設100%）

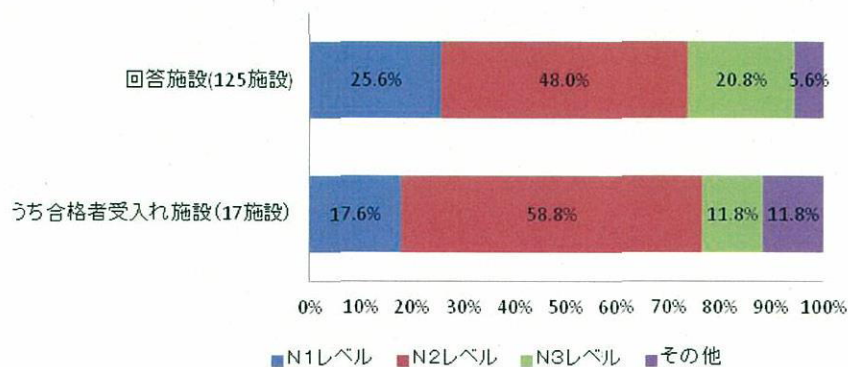
5. 調査の結果

(1) 候補者が病院で就労・研修を開始するに当たって、どの程度の日本語能力を備えていれば、十分に効果的な就労・研修が可能となると考えるか。

表1

	回答施設（125施設）		うち合格者受入施設（17施設）	
日本語能力試験N1レベル	32	(25.6%)	3	(17.6%)
日本語能力試験N2レベル	60	(48.0%)	10	(58.8%)
日本語能力試験N3レベル	26	(20.8%)	2	(11.8%)
その他	7	(5.6%)	2	(11.8%)

図1

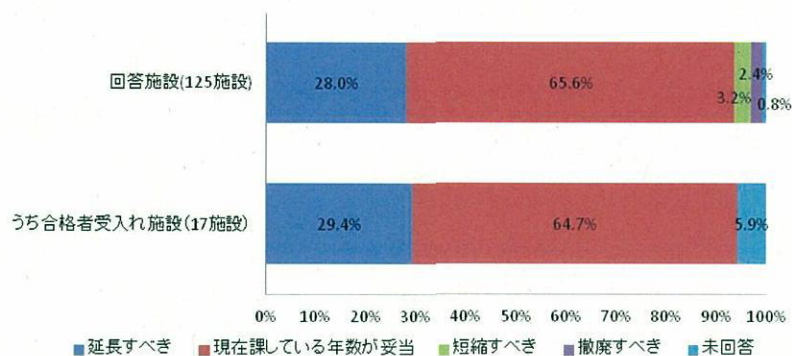


(2) 候補者となるに際して課している一定の実務経験（フィリピンでは3年以上、インドネシアでは2年以上）については、どう考えるか。

表2

	回答施設（125施設）		うち合格者受入施設（17施設）	
延長すべき	35	(28.0%)	5	(29.4%)
現在課している年数が妥当	82	(65.6%)	11	(64.7%)
短縮すべき	4	(3.2%)	0	(0.0%)
撤廃すべき	3	(2.4%)	0	(0.0%)
未回答	1	(0.8%)	1	(5.9%)

図2

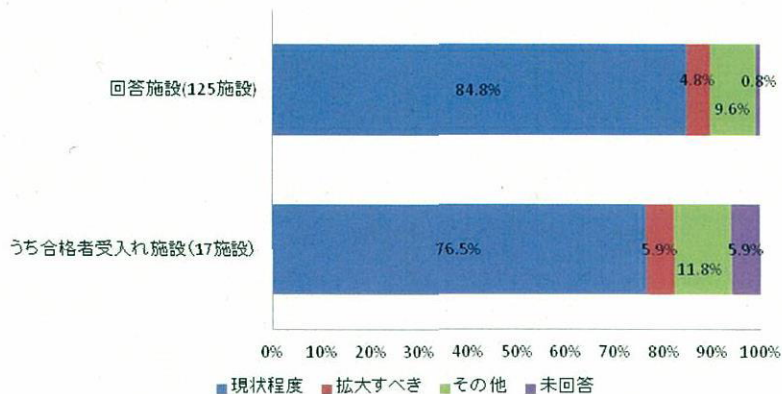


(3) 候補者が病院で就労・研修を開始する前の看護導入研修については、どう考えるか。

表3

	回答施設（125施設）		うち合格者受入施設（17施設）	
現状程度（まずは日本語研修の強化を図るべき）	106	(84.8%)	13	(76.5%)
拡大すべき	6	(4.8%)	1	(5.9%)
その他	12	(9.6%)	2	(11.8%)
未回答	1	(0.8%)	1	(5.9%)

図3



以上